

## 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 27日

事業所名 児童デイサービスフューチャー

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	利用人数や状況に合わせて確保している。	人数によっては部屋を分けている今後も続けていく。
	2	職員の配置数は適切である	6	0	活動に合わせて人員を増員している。	子どもの特性も考慮しながら人員の配置をする。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	0	使用する部屋をわける事や、階段を利用する時は必ず職員が付き添う。	怪我・事故の無いように注意を払う
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	0	清掃・消毒は業務前後に行い、部屋を分けて使用している。	清潔・安全・安心を心掛ける。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0	業務内容や支援の振り返りを日々連絡している。	情報を共有し、討議・振り返りを行う
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	アンケートの実施	いろいろな意見を受け止め、迅速に対応できるように努めていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	ホームページで公開している。	定着していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2	芦屋の施設との意見の交換を実施している。	交流し、合同で支援する中で支援内容を高めていきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2	4	時間等諸事情で研修に参加するのがむずかしい。	研修に参加できる機会を設ける。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	支援員で意見を出し合い、計画を作成している。	適切にアセスメントを行い、ニーズにあった計画を作成する。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	支援員で意見を出し合い、計画を作成する。	職員全員で、意見を出し合い支援内容を考えていく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0	適切に選択し、内容を考えている。	意見を出し合い、その都度変更し、対応するようにしていく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	職員で相談して決めている。	職員で相談し決定していく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1	月ごとに考えている	職員で相談し決定していく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	0	特性や発達状況に合わせて作成している。	保護者からだけでなく、学校、関係機関からも情報を共有し偏った計画にならないようにする。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	送迎の確認、連絡事項を実施している。	続けて実施していく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	日々、就業後に、SNS等で連絡している。	続けて実施していく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	業務日誌・連絡ノートを職員全員が目を通して	続けて実施していく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0	6か月ごとに計画の見直しをしている。	必要に応じて、見直し、作成する。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	職員全員が、状況を理解できている。	職員全員が把握するよう努めている。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	0	相談支援事業所の担当者と連携をとっている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている			現在児童発達の児童がいない為回答に適さない	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	学校での様子や情報を共有している。	関係機関と情報の共有をする。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	6		研修に参加できる機会を設ける。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	6		交流できるように努める
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	6		時間が合わずなかなか参加できていない。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	送迎時、連絡ノートにて、日々の様子を伝えている。	引き続き様子を伝えていく。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	0	必要な保護者には対応や改善の助言をしている。	引き続き支援する。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	契約時に説明している。	丁寧に説明する事を心掛ける。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている			職員で意見を出し合い、個々に沿った計画を作成し保護者に同意してもらっている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	送迎時、連絡ノートにて、日々の様子を伝えている。	状況の変化に合わせてその都度、相談、助言を行う。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	6	保護者会の開催はない。	意見の交換会等取り組んでいきたいが望まれていない保護者もいる。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	迅速に対応できるように心がけている。	迅速に対応できるように心がける。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	毎月のイベントのお知らせを配布している。	定着していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	情報は厳重に保管	流出しないように注意する。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	個々に対応を変え、配慮している。	今後配慮していく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	0	イベントによっては、地域の方に参加してもらい交流を図っている。	続けていきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	0	作成している。	作成しているが、見直しも必要。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	避難訓練、防災センターへ出かけている。	今後も定期的実施する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	0	服薬等状況を事前に確認している。	情報、確認を徹底していく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	事前に確認している	情報、確認を徹底していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	職員で回覧し個々で気を付けるように促す。	些細な事でも職員間で共有し、安全・安心な施設を子心掛ける。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	研修等に参加し職員間で共有している。	子どもたちにとって過ごしやすい環境づくりを心掛ける。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0	身体拘束は行っていない。	身体拘束は行わない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

### 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 27日

事業所名 児童デイサービスフューチャー

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	子どもたちの状況に合わせて、確保している。	人数に合わせて、フロアをわけているので、安全面に気を付ける。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
体制整備	2	職員の配置数は適切である	6	0	活動に合わせ、人員を増員している。	子どもの特性も考慮しながら人員を増やす。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	1	子どもたちが階段を使用する際は必ず職員が横に付くようにしている。	一人ひとりに合ったスペースを考え怪我・事故のないように注意を払う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	業務内容や支援の見直し等話合える場を設けている。	情報を共有し、討議・振り返りを行う。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	必ずアンケートを実施している。	保護者様のいろいろな意見などを受け取り、迅速に対応できるように努めていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	担当の職員が公開を行っている。	定着していきたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	0	イベントによっては、地域のボランティアの方と交流している。	戸屋の事業所とも合同で取り組み、対応を交換しあいより良い支援ができるようにしているの、続けていきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	0	6	時間等参加が難しい。	専門的な研修に参加する機会を設ける。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	ニーズに合わせ、支援者で意見を出し合い、支援計画を作成するようにしている。	適切にアセスメントを行い、ニーズに合った計画を作成する。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	職員全員で話し合いを行い、支援計画を作成するようにしている。	作成は引き続き児童発達支援管理責任者を中心とし事業所全体で内容を考え支援を行って行く
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	職員で相談して決めている。	職員で相談して決定していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	固定しないように、気を付けている。	毎月のお知らせで、予定を伝えているので、続けて行う。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	0	近くの公園に出かけたり、工作などに取り組んだ。	課外活動や、調理実習などいろいろな体験をさせたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	特性や発達状況に合わせて計画を作成している。	保護者だけでなく、学校、関係機関から聞きとり偏った計画にならないように作成する。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	毎日送迎の確認・注意事項・連絡を実施している。	欠席・追加・時間変更の確認を徹底する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	SNS・書類作成で情報を共有している。	見落としがないように、確認済の連絡をする。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	毎日、業務日誌・連絡ノートの記録を職員全員が目を通してしている。	従来通り実施する。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	6か月ごとのモニタリング・計画の見直しをしている。	必要に応じて、見直し・作成をする。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	6	0	ガイドラインを複数組み合わせさせて支援している。	引き続き行う。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	児童発達支援管理責任者が参加している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	0	毎月、子どもの利用予定表と共に情報共有・連絡調整を行っている。	引き続き行う。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	3		現在、医療ケアが必要な子どもを支援していない為、回答に適さない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	2	保育所・幼稚園での対応を先生に伺い事業所での様子を伝えるようにしている。	関係機関との情報を共有するようにする。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	0	要望に応じて、卒業後の就労事業所等と会議を行っている。	関係機関との情報を共有するようにする。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	6	日程や時間の調整が難しい。	研修会への参加
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	0	土曜日イベントで障がいのない子どもと関わりを持つ場を設けている。	特定の子どもに限らず、地域の人ともかかわりを持つようにしたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	6	日程や時間の調整が難しい。	参加できるように努める。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	連絡帳に記載し、送迎時や、line等で日々の様子を伝えている。	日々の様子を共有する。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	0	必要な保護者には、対応や、改善の助言をしている。	引き続き行う。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	契約時に説明している。	契約時に丁寧に説明するように心がける。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	送迎時に自宅や学校での様子を聞いている。	個人面談の機会を増やして、保護者の悩みや、子育ての助言できる場を適切に取り組みたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	6	保護者会の開催はしていない。	意見の交換会など取り組んでいきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	発生した場合は迅速に対応するように心がけている。	苦情が発生したときに迅速に行動できるように普段から、意識を持つ。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	毎月イベントのお知らせを配布している	定着していく。
	35	個人情報に十分注意している	6	0	同意書を作成の上、得た情報は厳重に保管している。	個人情報の取り扱いには、引き続き注意し流出しないように徹底する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	個々に対応を変え、配慮している。	今後も配慮していきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	6	難しかった	場を設けるように努力したい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	0	マニュアルを作成している。	職員間、保護者の周知をする。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	定期的な避難訓練・防災センターなどへ出かけている。	今後も定期的実施する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	研修に参加し職員間での共有を行っている。	研修会の参加・職員間での確認を行い、子どもたちにとって過ごしやすい
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	0	身体拘束は行っていない。	身体拘束を行わない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	事前にアレルギーの確認をしている。	事前確認を徹底し、常に注意する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	職員に回覧し、個々で気を付けるように促している。	どんな些細なことでも職員間で共有し、安心・安全な施設を心がける。